

教員名	舘 かおる (TACHI Kaoru)
所 属	ジェンダー研究センター
学 位	文学修士 (1975 お茶の水女子大学)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.igs.ocha.ac.jp/ / tachi.kaoru@ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

ジェンダー / 規範と制度 / 東アジア / Web世界 / 教育

## ◆主要業績

総数 ( 4 ) 件

- ・舘かおる『『満州』における植民地的近代とモダンガールー「モダン」の構成要素をめぐって』  
『東アジアにおける植民地的近代とモダンガール 研究成果報告書』  
(平成15年度ー18年度 科学研究費補助金基盤研究 (A) (1)課題番号 15201057 研究代表者 舘かおる)  
2007年3月 179ー205頁
- ・舘かおる「Web世界での『ジェンダー』の位相」『F-GENS ジャーナル』7号 2007年3月 86ー92頁
- ・舘かおる「ジェンダーフリー教育が意図したもの」若桑みどり・加藤秀一・皆川満寿美・赤石千衣子編著  
『「ジェンダー」の危機を超える!』青弓社 2006年8月 263ー270頁
- ・舘かおる編 戴錦華著『中国映画のジェンダー・ポリティクスーポスト冷戦時代の文化政治』  
御茶の水書房 2006年12月

## ◆研究内容

1. 2003年度に採択された科学研究費補助金基盤研究 (A) (1)の研究プロジェクト「東アジアの植民地的近代とモダンガール」の最終年度に当たることから、総頁数 208 頁の「研究成果報告書」をまとめた。研究代表者、分担者 8 名と海外研究者 2 名から論考が寄せられた。研究代表者自身は、日本内地のモダンガールと比較しながら、「満州」における「モダン」の構成要素をめぐって、「満鉄」やハルビンにおける実在した「モダンガール」の記録や聞き書きを基に考察した。
2. COE「ジェンダー研究のフロンティア」のCプロジェクト「身体と科学・医療・技術」のリーダーをつとめ、ウェブ世界の検索における語彙「ジェンダー」の順位に関わり、その決定要因を解明し、実世界の権力関係とウェブ世界の検索サイトの順位との関係性につき分析した。
3. 日本におけるジェンダーフリー教育の展開過程につき論考をまとめた。

## ◆教育内容

(ジェンダー研究センター) C.ソブリチャフィリピン大学教授と J.ワイスマンオーストラリア国立大学教授を招聘し、「女性の人権尊重とジェンダー平等の推進」及び「テクノロジーの社会的形成とジェンダー」と題するセミナーを主催。(大学院前期課程)「ジェンダー基礎論」「同演習」等では、ジェンダー概念成立過程に関わる基本的な文献を講読。(大学院後期課程)「ジェンダー史論Ⅰ」「同演習Ⅱ」では、文献の講読、各自の博士論文の執筆を推進。修士論文「サイバーフェミニズムの実践としてのテクノ・ライティング」、博士論文、『『婦女雑誌』にみる『新婦女』の構築』の主旨指導教員と主査を務め、博士論文の審査員として「在日朝鮮人女性による『下位の対抗的な公共圏』の形成」、「トランスナショナルな文脈における『セクシュアリティ』と「母性」の変化」、「モディストの表象」、「食卓での家族団欒の歴史的変遷」の副査を務めた。

## ◆共同研究例

---

研究例1「女性と喫煙規範と表象」(日本たばこ総合研究センターとの共同研究) 研究例2「アジアのモダンガールとく世界」(ワシントン大学「世界のモダンガール」研究会との共同研究)

## ◆共同研究可能テーマ

---

- ・東アジアの女性学、ジェンダー研究の推進とその影響力の検討
- ・ウェブ世界を把握する方法論の開発とその使用による分析

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

変転する世界状況の中での「東アジア」のジェンダー研究の課題を当面2つの方向で展開する。第1は、東アジア社会の歴史的経験の中から、ジェンダー研究の今後の方向性を示唆する知見の創成。第2は、Web世界の現出が人間の「知」の生成過程を変容させる、新たな要因の把握である。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

ジェンダー研究は、女性学の成立から数えても、まだ40年の歴史もない新しい学問研究です。でもジェンダー研究は、これからの世界が、20世紀システムでは立ち行かなくなったことから生まれてきました。お茶の水女子大学には、日本の大学で始めて設置されたジェンダー研究センターという場もあります。21世紀の世界で生きるあなたたちが、ジェンダー研究を学び、まだ誰も知らない新しい世界を拓いていくことを期待しています。